

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新地町立福田小学校（福島県）【指定校】

【取組内容①】「子どもを主語にした個別最適な学び」の実現に向けて

「子どもを主語にした学び」の実現に向けて

「子どもが主語の授業（スケール）」

	1	2	3	4	5
課題	教師が課題を設定する	生徒が課題を設定する	生徒が課題を設定する	生徒が課題を設定する	生徒が課題を設定する
過程	教師が過程を設定する	生徒が過程を設定する	生徒が過程を設定する	生徒が過程を設定する	生徒が過程を設定する
評価	教師が評価を設定する	生徒が評価を設定する	生徒が評価を設定する	生徒が評価を設定する	生徒が評価を設定する
フィードバック	教師がフィードバックを設定する	生徒がフィードバックを設定する	生徒がフィードバックを設定する	生徒がフィードバックを設定する	生徒がフィードバックを設定する
学習成果	教師が学習成果を設定する	生徒が学習成果を設定する	生徒が学習成果を設定する	生徒が学習成果を設定する	生徒が学習成果を設定する

「児童に身につけさせたい力」

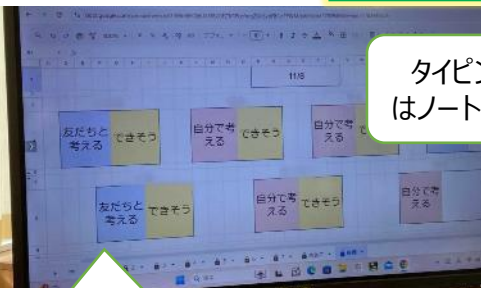
- 「課題、課程、形態、ツール、空間、ペース」を自分で決め、学習の見通しを持って「どう学ぶか」を自分自身で考え、実践できる力。

そのためには...

低学年から「自己決定」できる場を多く設定し、系統的・継続的に取り組むことが必要

2年生

タイピングはまだ難しくても、振り返りはノートの写真を使って。



「どう学ぶか」「自分の状況」を共有。



5年生

学習計画	学び方	アウトプット	確認
①正多角形の面積を理解する...	友達	友達に...	わかった
②四角形を組み合わせて正多角形を...	一人(複数)	自分で...	わかった
③四角形の面積の長さを測いて正六...	友達	友達に...	わかった
④四角形の長さを測いて正多角形を...	友達	友達に...	わかった

友だちの「学び方」を確認しながら。

6年生

学習計画は「自分で決める。」

日付	学習計画	予習	今日のめあて (できるよにしたいこと)	何を使った
1月10日	①ものの並べ方について...		ものの並べ方について、起こりうる場合を順序よく整理し、落ちや事なりがないように調べる方法を考えよう。	教科書・ノート 付箋とセリ
1月14日	②ものの並べ方について...		ものの並べ方について、起こりうる場合を順序よく整理して調べよう。	教科書・ノート 付箋とセリ
1月18日	③ものの並べ方について...		ものの並べ方について、起こりうる場合を順序よく整理して調べよう。	教科書・ノート 付箋とセリ

家庭学習も「子どもを主語」に。

2月の目標	入力	計画時や当日に入力	確認後に入力
2025.2.1	...	...	...
2025.2.2	...	...	...
2025.2.3	...	...	...
2025.2.4	...	...	...
2025.2.5	...	...	...

低学年から、自己決定できる場面を多く設定し、学びやすい環境を自分自身で考え、決めながら学習を進められるように取り組んできた。

児童の感想をみると「自分のペースで進められるからとてもやりやすい。分からないところがあっても友達が教えてくれてスムーズに進められて嬉しいです。」といった肯定的な意見が多く見られた。

今後も「どう学ぶか」を児童自身に委ねていくことで、「子どもを主語にした」学びを推進していきたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新地町立福田小学校（福島県）【指定校】

【取組内容②】低学年から系統的に情報活用能力を育成するための「年間計画の活用」

令和5年度

新地町立福田小学校 情報活用能力育成 年間計画

情報活用能力育成の重点目標

③ 問題解決的な学習で、情報収集と選択、読み取りとまとめ、発表などの活動を通して、活動スキル及び探究スキルの向上を目指す。

第1学年

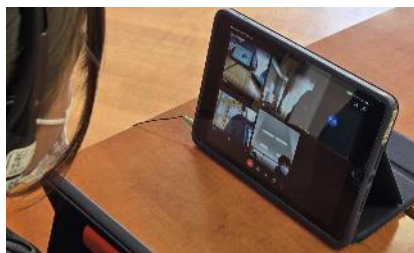
	学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
活動スキル	情報を集めたり、発信したりする際、手段の特性を意識して活用することができる。	① 情報の収集・編集 ② ウェブ検索 ③ インタビュー ④ アンケート ⑤ メモ ⑥ 口頭発表		【生活】A1-A5 「ともだちがっこうをたんけんしよう」	【算数】A2 「ぜんぶでいくつ」		【国語】A1「ごちそうパーティーをしよう」	【算数】A2 「3つのかずのけいさん」		【生活】A1-A2(D4) 「じぶんでできるよ」	【生活】A1-A2(D4) 「ふゆをたのしもう」		
探究スキル	情報の収集・編集（整理・分析や表現）・発信の過程を組み立て、目標を意識して評価・改善することができる。	① 情報の収集 ② 情報の分類 ③ 情報の関係付け ④ 問題解決の手順 ⑤ 試行錯誤 ⑥ データの傾向 ⑦ 情報技術の発表		【生活】A1 「きれいにきてね」		【算数】A2 「のこりはいくつ」	【国語】A1「カラフルいろみず」	【国語】A1「はこでつづけたら」				【生活】A1-A2(D4) 「あたらしいねんせいをしようたいしょう」	
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に関連付けて考えることができる。	① コンピュータのしくみ ② 情報の分類 ③ 情報の関係付け ④ 問題解決の手順 ⑤ 試行錯誤 ⑥ データの傾向 ⑦ 情報技術の発表								【生活】B8(A2) 「たのしいあそびいっぱい」			【体育】B8(A1) 「多様な動きをよる運動遊び」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	① コミュニケーション ② 法と権利 ③ 健康と安全 ④ ルール・マナー ⑤ セキュリティ ⑥ 個人情報 ⑦ 情報社会の将来		【国語】C4 「なんいていおうかな」				【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					
								【音楽】C5 「どれみどなかよくならな」					

低学年からの系統的な情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を図るために、各学年毎に年間計画を作成し、活用している。情報活用能力を4つのスキル（活動スキル、探究スキル、プログラミング、情報モラル）に分け、教科名・単元名を明記しており、学年ごとに確認し、教科横断的な指導ができるようにしている。毎年各学年で見直し、新たな実践等を加筆修正することで、個人の実践にとどまらず、使用した教材等を学校全体で共有し、次年度以降も持続可能な形で実践できるようにしている。

今年度追加した実践
6年生【外国語】「My best memory」

新地町内3校の6年生をつないで小学校での思い出を互いに発表した。

低学年から継続して情報活用能力の育成を図ってきいていることもあり、相手意識をもち、伝わりやすくなるように表現を工夫して発表するだけでなく、受け手としてどんな態度でコミュニケーションを図っていけばよいかを考えながら活動を行うことができていた。



第6学年

	学習目標	学習内容	1月	2月	3月
活動スキル	情報を集めたり、発信したりする際、手段の特性を意識して活用することができる。	A1 記録と編集 A2 P.Cの操作 A3 ウェブ検索 A4 図書利用 A5 インタビュー A6 アンケート A7 メモ A8 口頭発表			
探究スキル	情報の収集・編集（整理・分析や表現）・発信の過程を組み立て、目標を意識して評価・改善することができる。	B1 取捨選択 B2 読み取り B3 創造 B4 伝達内容の構成 B5 表現の工夫 B6 受け手の意識 B7 学習計画 B8 評価と改善	【理科】B7 「水溶液の性質とはたらき」	【体育】B8(A1) 「多様な動きをつくる運動遊び」	
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に関連付けて考えることができる。	C1 物事の分解 C2 情報の分類 C3 情報の関係付け C4 問題解決の手順 C5 試行錯誤 C6 データの傾向 C7 情報技術の発表		【理科】C4 「地球に生きる」	【総合】C1～C7 「プログラミング」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	D1 コミュニケーション D2 法と権利 D3 健康と安全 D4 ルール・マナー D5 セキュリティ D6 個人情報 D7 情報社会の将来	【外国語】D1・D4 B4～6 「My best memory」	【道徳】D2・D4 「かがやく命」	【体育】D3 「病気の予防」

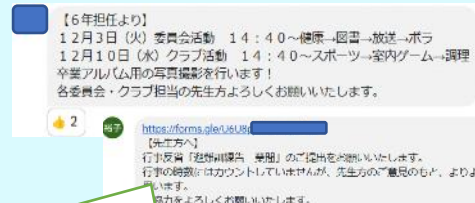
リーディングDXスクール事業【実践事例】

新地町立福田小学校（福島県）【指定校】

【取組内容④】 教員の働き方改革につながる校務DXの推進

会議の資料は「Classroom」に

職員会議や教育課程編成に関わる資料等、職員全体に関わる要項・資料は「Classroom」にアップロードすることで、印刷、丁合の手間がなくなった。また、いつでも端末から内容を確認できるようになり、利便性が大きく向上した。

全体、個別の連絡は「Chat」で

個別の連絡は「ダイレクトメッセージ」で

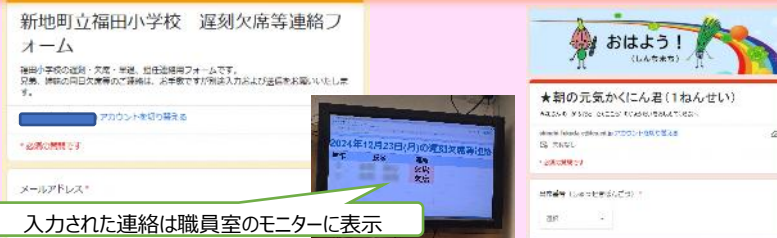
音楽祭の反省用紙です。
記入が済みましたら、私まで返信をお願いします。

全体への連絡は「教職員ルーム」で

「chat」を活用することで、瞬時に連絡事項を共有できるようになった。文字として残るため、あとから見返すことですぐに内容の確認ができた。個別の連絡や必要なファイルの転送も「ダイレクトメッセージ」で送受信することができる点も大変便利であった。

アンケート、行事反省は「forms」で集約

学校評価等の各種アンケートや、行事の反省の入力、集約に「forms」を活用した。結果をすぐにスプレッドシートに出力して共有することができ、集計に関わる時間を大幅に短縮することができた。紙媒体で行っていた時には、集めた回答の管理にも気をつかう必要があったが、その必要がなくなった点も非常に大きく感じている。

欠席連絡、健康観察にも「forms」を活用

入力された連絡は職員室のモニターに表示

朝の欠席等の連絡にも「forms」を取り入れたことで、朝の電話対応に時間を取られることがなくなった。連絡は職員室のモニターに表示され、各担任も教室から端末で欠席連絡をすぐに確認できるようになったことで登校確認にかかる時間を大きく短縮することができている。本町では児童の健康観察にも「forms」を取り入れており、担任や養護教諭が気になる回答をしている児童にすぐに声かけを行えるようにしている。